

「道徳」の授業を通してながめた中学生像

——中学二年における実践より——

宮 田 学

1 ま え が き

名大附属は中学と高校の併設校であり、われわれ教師も中・高併任である。筆者が中学の担任をしたのは、昭和52年度（中1）、53年度（中3）、そして58年度（中2）の3回である。高校に比べて、中学の担任は生徒たちの生活全体とかかわる度合いが増す。朝と帰りの短学活、学級会活動（高校ではホームルーム）などの指導は中・高かわりが無いにしても、高校にはない「道徳」の授業をどのように行うかは、中学の担任としての1つの大きな仕事となる。筆者の場合も、自分なりの考えに従って授業計画を行うが、例えば、53年度には「ディベート」の方法を授業に取り入れて、生徒たちの理性的な判断力を養う試みを行った（本校紀要第24集：拙稿「特設道徳におけるディベートの導入」参照）。昨年度は、それ以来久しぶりに中学の担任となったわけだが、ビデオ教材を利用した「道徳」の授業など新しい試みを行いながら、生徒たちの反応を見、生徒たちが書いたものをながめたりしているうちに、現代の中学生像として整理してみると面白そうだと思い、このような題目で報告しようと考えたのである。

2 「道徳」の授業をどのように計画したか

新しい指導要領の下で、いわゆる「ゆとり」の時間が新設され、各教科の学習以外にクラス単位で活動する場面が増えた。本校におけるこれら諸活動の詳細については、紙面の制約があるので割愛するが、結局、クラス担任が計画的に指導する時間は、主として「道徳」（週1時間）と「学級会活動および学級指導」（週2時間）である。本校は比較的担任の自主性が確保され、重んじられているので、これらの時間の使い方は各担任あるいは学年に任されている。

さて、58年度に中学二年A組を担当するにあたり、「道徳」および「学級会活動」について、まず次のような基本方針をたてた。

- 1) 「道徳」については担任主導型で行い、「学級会活動」を生徒たちに運営させる。
- 2) 42名の在籍生徒を6名ずつ7班に編成し、班活

動を中心にクラスでの諸活動に取り組ませる。

- 3) 7つの班に1つずつ役割を持たせるようにし、4月の新学期の段階で生徒たちにその内容を考えさせることにする。（この結果、ST班、広報班、学習班、生活班、文化班、スポーツ班、お手伝い班が決定された）

- 4) 「学級会活動」では、クラス全体の協議事項、班会議、生徒会活動に関する内容、学校祭などの学校行事に向けての準備・活動などを主に行う。

- 5) と同時に、文化班・スポーツ班が計画し、主催する活動を「学級会活動」に取り入れる。

- 6) 「道徳」では、教師が考えたテーマに沿って授業を実施するが、学校行事やクラス・学年での活動との関連を考えた内容を必要に応じて取り入れる。

「道徳」の授業に関しては、次のような基本的な姿勢で臨んだ。

道徳教育は、学校生活全体の中で位置づけられ、実践されなくてはならない。いわゆる「徳目」だけが抽出され、頭の中で考えられた「よい行い」・「よい考え」を問題にしても、本来の道徳的実践力は養われない。むしろ、子どもたちの学校生活、家庭生活、友人関係などあらゆる生活場面の中で考えられるべきものである。道徳的な徳目は実践されてこそ意味があるので、「道徳」の授業が行われる50分間だけ「よい子」になっても仕方がないことなのである。

実際にクラス担任をして生徒たちの日常生活を観察していると、毎日の生活の中で、例えば全員清掃の時間は、頭だけの理解でなく、手足を使って事のよし悪しを判断するきっかけの機会を与えてくれ、その指導を通じて生徒たちの美化意識や自律心などを養い、高めるといふ本来の道徳教育となることがわかる。特設道徳自体に対する批判の多くは、こうしたことを無視ないし軽視した生活全体からの遊離と、徳目主義から来る非現実性・矛盾性に向けられる。しかしながら、カリキュラムの中にある「道徳」をそのようなことを理由に、遊びの時間にしたり、他の教科の授業に振りかえたりすることは許されない。「道徳」の時間をむしろ積極的に活用し、生徒たちの学校生活の中から問題を掘り起こして、それを深める機会としたり、問題解決を行わせたりするような方向へ持ってゆきたい。

そこで筆者としては、「道徳」の授業を生徒たちの日々の生活にはね返ってゆくようなものとするために、前述のような方針で実施したのである。「道徳」の授業は、58年度中二Aの場合、年間を通して33回行なうことができたが、それを内容別に整理すると、次のようになる。(各項目の前の数字は日付)

Ⓐ 教師が考えたテーマに沿った授業……19回

- (1) 話し合い・作文
 - 4.26 作文「二年生になって」
 - 5.10 討論会「どうしたらそうじを協力して能率よくできるか」
 - 5.24 話し合い「日課とテスト勉強」
 - 6.7 話し合い「友だち関係：その1——私の中学生・高校生時代」(教育実習生による授業)
 - 6.14 話し合い「友だち関係：その2——よい友だちとは？」(教育実習生による授業)
 - 10.12 作文「親に言いたいこと」
 - 11.30 討論会「規則・きまり・ルール・マナー」(男子の制帽に賛成か反対か)
 - 1.18 アンケート「現在の私・未来の私」
 - 1.25 討論会「ママラーの使用について」
 - 2.15 作文「私の教育改革案——拝啓、中曽根康弘様」
 - 2.22 作文「二年生をふり返って」
 - 3.6 「クラス文集にのせる作文下書き」

(2) ビデオの利用

- 5.16 鑑賞『老人と鷹』(カンヌ国際映画祭でグランプリを獲得した日本テレビ制作のドキュメンタリーフィルム：昭和37年の作品)
- 5.17 「生活のリズム」(NHK教育テレビの『中学時代』より関係したビデオ視聴後、生活表を書き、理想の日課プランを提出させる)
- 10.5 「男女の交際」
- 11.2 「万引」
- 12.12 鑑賞『ガラスのうさぎ』前編(高木敏子原作の戦争体験記を映画化したもの：昭和55年、大映映像の作品、橋祐典 監督)
- 12.14 鑑賞『ガラスのうさぎ』後編
 - 2.1 「いじめっ子・いじめられっ子」

Ⓑ 学級指導・生徒会活動に関連した授業……9回

- 4.12 「集団生活：クラスと生徒会」(前期ホームルーム役員選挙および生徒会役員候補選出)
- 4.19 「集団生活の中の自分」(班活動の内容を考える)
- 7.19 「夏休みの生活を送る上で」

- 9.6 「第3回目の班編成と新しい班会議」
- 10.19 「スポーツ班主催バレーボール大会」
- 10.26 「第4回目の班編成と新しい班会議」
- 1.11 「第5回目の班編成と新しい班会議」
- 2.8 「雪合戦」
- 3.14 「クラス文集作り」

Ⓒ 学校行事に関連した授業……5回

- 5.31 中2合同ホームルーム「林間学校に向けて」
- 6.21 「林間学校に向けて」(各グループでの話し合い)
- 9.13 「学校祭準備：合唱の練習」(パート別)
- 9.20 「学校祭準備：合唱の練習」(全体)
- 11.9 「秋の遠足について」, 「修学旅行について」

以上のように、筆者の行った58年度の「道徳」は、33回のうち、14回がクラス経営・生徒会活動・学校行事に関連した内容、残りの19回が狭い意味の「道徳」の授業内容であったと言える。この狭い意味での「道徳」は、ビデオを利用した授業、話し合いを中心とした授業、作文や日課を考えて書かせる授業に大別される。これらの授業では、ただ言い放し、ただ見ただけに終わらぬよう、授業の最後またはその過程において、一人ひとりの生徒が自分自身の考え方をまとめられるように、時間を設けて意見や感想などを書かせることが多かった。こうしたものを整理してゆく中で、筆者の担任した中学生像を描いてみようと思う。

3 生徒たちのプロフィール

名大附中には、保護者とともに名古屋市内に居住している者ならだれでも応募できる。定員は各学年45名の2クラス、計90名で、まず抽選によって90名が選ばれ、筆記試験、面接を経て正式な合格者が決定される。従って、入学してくる生徒たちの居住地は名古屋市内の各所に分かれることはもちろんのこと、学習面・運動面・生活面いずれをとっても様々な生徒たちが入ってくる。市内の公立中学校と違って、地域性がないかわりに、様々なバックグラウンドを持った生徒から構成されている。

筆者が担任となった中二Aのクラスの生徒たちの特徴を、まず「道徳」の授業を通じて得られた3つの資料から描いておこう。

新学期を迎えて3週間近く経過した時に、「二年生になって」という題で作文を課した。15分ほど、二年生という時期の重要性、生活面・学習面での心がまえなど一般的な話をしたあとで、各自の所感と二年生の生活を送る上での目標・決意を書くように指示した

〔資料-1〕 二年生の生活目標

	男	女	計
・部活をしっかりやる・休まない	11 ^人	7 ^人	18 ^人
・家庭学習を増やす 毎日(少しでも)勉強する	6	7	13
・苦手科目をなくす・がんばる	6	5	10
・(授業中)しゃべらない 話をよく聞く	6	3	9
・けじめのある生活を送る	2	7	9
・水泳が(もっと)できるようになる	4	5	9
・忘れ物をしない	4	2	6
・運動の記録をのばす	4	2	6
・復習中心に勉強する	2	3	5
・よい先輩になる	4	1	5
・体力をつける	1	4	5
・そうじをしっかりやる	2	2	4
・定期テストの記録を更新する	2	2	4
・身長または体重を増やす	1	2	3

のである。生徒たちがこの時にたてた目標から目立ったものを示すと〔資料-1〕のようになる。

6月の教育実習期間に中二Aの担任として配属された実習生が3名いた。中学に配属されると、「道徳」の授業も実習させるのが本校の習慣である。指導教官となった筆者は、この3名の実習生に対して、友だち、親子関係、進路の3つを授業で取り上げるテーマの候補として示し、2回の授業を3人で分担して計画し、実施することを要請した。結局、彼らは「友だちとは」というテーマで授業を構成したいと考え、2回にわたって実施したのである。この最初の授業では、2人の実習生から「私の中学生・高校生時代」という話を聞いたあとで、生徒たちは、「どういふ友だちが欲しいか?」、「自分は、友だちにとってどういふ友だちになりたいか?」ということを用紙に書いて提出した。これを整理したのが〔資料-2, 3〕である。

三学期に入った1月半ばに、1年後には中学卒業後の進路を決定してはならない自分が、現在どんなことに興味・関心を持ち、将来どんな方向へ進みたいと思っているのかを、様々な角度から考えさせようと思い、「現在の私・未来の私」というアンケート形式のプリントを作成した。このプリントに生徒たちが書いて答えたものを整理して、〔資料-4~7〕のような結果が得られた。

〔資料-2〕 どういふ友だちが欲しいか

	男	女	計
・何でも相談できる人	7 ^人	11 ^人	18 ^人
・おもしろい人・明るい人	4	9	13
・ライバルになるような人	4	2	6
・信頼できる人	3	2	5
・趣味が同じ人	4	1	5

〈その他〉・親友でなく真友がほしい ・思いやりのある人 ・長くつきあえる人 ・自分の持っていないところを持っている人 ・悪いことをしたら注意してくれる人 ・自分を助けてくれる人

〔資料-3〕 どういふ友だちでありたいか

	男	女	計
・相談にのってあげたい	7 ^人	7 ^人	14 ^人
・信頼されたい	2	7	9
・頼りにされたい	3	2	5
・楽しい友だちでありたい	0	3	3

〈その他〉・相手のことをよく知っている ・優しく、思いやりがある ・一緒に悲しみ、一緒に喜ぶ ・いつまでもつきあっていける ・悪いことは悪いと言え

4 ビデオによる授業「男女の交際」より

一学期末と夏休み、さらに二学期初めと、一部女子生徒の下着がなくなるという事件が起こった。状況から判断して、二年生男子の仕業らしいと考えられたが決定的なことは何も言えなかったので、被害にあった生徒たちに自己防衛策を考えさせることしかできなかった。中学二年の担任会でこの問題が取り上げられ、何とかできないだろうかという話になり、「性教育」の必要性がありはしないかという結論になった。そこで筆者なりに考えて、ことばで伝えるにくいところをビデオを見せ、異性に対する意識調査を行うと同時に、男女の交際について考えさせようと思図したのである。ちょうど録画してあったNHK教育テレビの『中学時代』の番組に「異性」というのがあったので、これを利用することにした。あとで示す〔資料-8〕の6の項目は、この番組の中で教室の中での授業展開に用いられていたものである。

中2段階の生徒は、「性」に関する知識の量や関心

「道徳」の授業を通してながめた中学生像

〔資料-4〕 私の趣味 ベスト5

男子		女子		クラス全体	
1) 音楽鑑賞	(8人)	音楽鑑賞	(8人)	音楽鑑賞	(16人)
2) プラモデル・模型製作	(8)	読書	(5)	マンガ・アニメ	(8)
3) マンガ・アニメ	(4)	マンガ・アニメ	(4)	読書	(8)
4) 鉄道・旅行	(3)	映画鑑賞	(3)	映画鑑賞	(5)
5) 読書	(3)	スポーツ	(3)	スポーツ	(5)
マイコン・パソコン	(3)	絵画	(3)		
自動車レース	(3)				
その他) スポーツ, 映画, 釣り		手芸, 動植物, 料理			

〔資料-5〕 私の好きな科目 ベスト5

男子	女子	クラス全体
1) 社会 (14人)	社会 (12人)	社会 (26人)
2) 理科 (8)	英語 (9)	英語 (16)
3) 数学 (8)	国語 (7)	数学 (14)
4) 英語 (7)	数学 (6)	体育 (11)
5) 体育 (5)	理科 (6)	美術 (9)

〔資料-6〕 私のきらいな科目 ワースト5

男子	女子	クラス全体
1) 国語 (8人)	数学 (7人)	数学 (14人)
2) 数学 (7)	英語 (4)	国語 (11)
3) 社会 (7)	社会 (4)	社会 (11)
4) 音楽 (5)	理科 (3)	英語 (8)
5) 英語/体育(4)	国語 (3)	理科 (7)

〔資料-7〕 私の理想像 ベスト4

男子	女子	クラス全体
1) やさしい(あたたかい)人間 (3人)	やさしい人間 (5人)	やさしい人間 (8人)
2) 平凡な普通の人間 (3)	人から好かれる人間 (5)	人から好かれる・信頼される人間 (6)
3) 明るい人間 (2)	目標に向かって進んでゆく人間 (2)	普通の人間 (5)
4) 他人にも自分にも厳しい人間 (2)	普通の人間 (2)	明るい人間 (3)
その他) 自分の仕事に誇りを持てる人	自分の意志をはっきりさせる人	
まわりのことを考えて行動できる人	家庭的な人; 気持を顔や態度に表わさない人	
人を愛せる人	人の気持を思いやれる人; 完ぺきな人	
一人前の人間	さっぱりした性格の人; 何事にもおおらかな人	
人のことを尊敬できる人	男女の差別をなくすような人; もの静かな陰の努力家	

の度合の差が激しい。個人差を無視した一律的な性教育は考えものである。どうしても突っ込んだ話ができないので、ごく一般的なことになってしまいがちである。このへんのところを悩みながら、とにもかくにも「性教育」らしきものをやってみようと、次のような手順で授業を実施した。

1. 導入：次のようなことを教師が話す。

- ・小学校高学年から中学校にかけて男女の性差（第二次性徴）が現われてくるが、個人差が大きいし、それについての知識の差も大きい。
- ・最近起こった女子の着下の盗難は、性に関する好奇心が異常に現われたものと言える。異性に関心を示すことは健全なことであるが、屈折してはいけない。
- ・男女の交際についての問題は、異性を好きに

〔資料-8〕 ビデオによる授業「男女の交際」で使用したプリント

<p>中2A 「道 徳」： 男女の交際</p> <p>ビデオを見る前に・・・次の各項目について、自分にあてはまるものの記号を○で囲みなさい。</p> <p>1 現在、異性の親しい友だちがいますか？ ア いる イ いない</p> <p>2 異性の友だちが欲しいと思いますか？ ア 思う イ 思わない</p> <p>3 ある異性が好きになった時、どのような行動をとりますか？ ア 何も言わないし、何もしない イ 何となく態度や様子で知らせようとする ウ 同性の友だちを通して自分の気持を伝えてもらう エ 自分で電話をかけた後、手紙を出したりして伝える オ 相手に直接会って言う カ グループで交際してゆく中で機会をみて表明する キ 何かプレゼントして自分の気持をわかっってもらう ク その他 ()</p> <p>4 異性との交際、男女問題、性のことなどで悩んだことがありますか？ ア ある イ ない</p> <p>5 「ある」と答えた人について： さしつかえなければ、その悩みを書いてください。</p> <p>ビデオを見る前と後で</p> <p>6 中学生の男女交際について、次の1～16の中で、どこまで認めますか？</p> <table border="0"> <tr> <td>1 話し方</td> <td>9 好きな人なら悪いAまで</td> </tr> <tr> <td>2 手紙の交換</td> <td>10 愛していれば悪いAまではよい</td> </tr> <tr> <td>3 交換ノート</td> <td>11 好きな人なら悪いBまで</td> </tr> <tr> <td>4 遊び方</td> <td>12 愛しているなら全体的Bまで</td> </tr> <tr> <td>5 正んて歩く</td> <td>13 好きで傳じているならCまで</td> </tr> <tr> <td>6 手をつなぐ</td> <td>14 愛しているならCまで</td> </tr> <tr> <td>7 映画や喫茶店に行く</td> <td>15 遊ばずするなら成り行きしたい</td> </tr> <tr> <td>8 ほほや笑によれる</td> <td>16 責任を持つならCまで</td> </tr> </table>	1 話し方	9 好きな人なら悪いAまで	2 手紙の交換	10 愛していれば悪いAまではよい	3 交換ノート	11 好きな人なら悪いBまで	4 遊び方	12 愛しているなら全体的Bまで	5 正んて歩く	13 好きで傳じているならCまで	6 手をつなぐ	14 愛しているならCまで	7 映画や喫茶店に行く	15 遊ばずするなら成り行きしたい	8 ほほや笑によれる	16 責任を持つならCまで	<p>(男・女)・・・いずれかを○で囲む</p> <p>(1) 見る前 () それはなぜですか？ ()</p> <p>(2) 見た後 () 前後で考えの変わった人について： なぜ意見が変わりましたか？ ()</p> <p>ビデオを見た後で・・・次のことについて感じたままを書いてください。</p> <p>7 番組で出てきた、中3の12月で交際ははじめ、3～4回のデートで初体験したという Y子さんのことをどう思いますか？ ()</p> <p>8 番組で出てきた、中2のころに交際ははじめ、半年後に好奇心からSEX まで進んだ T君のことをどう思いますか？ ()</p> <p>9 ビデオ番組を見て感じたこと、考えたことを書いてください。 ()</p>
1 話し方	9 好きな人なら悪いAまで																
2 手紙の交換	10 愛していれば悪いAまではよい																
3 交換ノート	11 好きな人なら悪いBまで																
4 遊び方	12 愛しているなら全体的Bまで																
5 正んて歩く	13 好きで傳じているならCまで																
6 手をつなぐ	14 愛しているならCまで																
7 映画や喫茶店に行く	15 遊ばずするなら成り行きしたい																
8 ほほや笑によれる	16 責任を持つならCまで																

なること、異性とのつきあい方という2つの問題がからんでくる。

2. 展開(1)：プリント配布 [資料-8]

- ビデオを見る前にの5つの項目について、自分自身のことを正直に答えさせる。人には見られたくないから、「見ないこと」を注意する。
- 6番目の項目について、(1)見る前を記入させる。この際、A・B・C (さらにD) について説明を加える。(よく知らなかった生徒は真剣に聞いている様子であった)

3. 展開(2)：ビデオ番組視聴 (約15分)

4. 展開(3)：再びプリントに戻る

- 6番目の項目の(2)見た後を記入させる。
- ビデオを見た後での3つの項目について、Y子さん、T君がだれかを確認したあとで、自分の意見を書き込ませる。

5. まとめ：教師の話

- 教師の助言として、次の4つの点を話してやる。

- ① 自分の体に関する正確な知識を得るようにすること。必要以上に悩まない。友だち、同性の親、先生などに相談すると意外にささいなことで悩んでいたことがわかったりする。

- ② 異性の友だちとつきあうのはグループでつきあうとよい。おたがいの家に招くのも一方法である。
- ③ 人間関係は永遠不変のものではなく、変わるもの。質的な変化もある。
- ④ 同性・異性をとわず、人間に対する接し方の基本は同じ。自分をいつわらずに素直に出せるような人間関係がよい。

生徒たちがプリントの項目1～6に記入した結果を整理して〔資料-9〕に示しておく。6番目の項目は、ビデオを見る前と後ではほとんど差がなかった。この結果を見ると、少なくとも筆者の担任した中2については、一部に伝えられているような「進んだ男女関係」というものはなく、全体的に健全な考え方をしているということがわかる。それは、項目6の理由や、項目7～9に関する生徒の考えをみてもわかる。生徒が書いた文をいくつか紹介しておこう。〔資料-10〕

この授業は、筆者にとってかなりしんどいものであった。「性教育」の必要を感じながらも、これまで正面から取り上げたことは一度もなく、せいぜい、男子と女子が仲良く生活する方向への話し合い活動程度であった。生徒の個人差が大きいことが最大の原因であったと思うが、やはり、避けて通っていたことは否めない。理科の生物分野、保健の授業など、他教科

〔資料-9〕 「男女の交際」(1)

問い	答え	男子	女子	合計
①	ア	4人	3人	7人
	イ	16	18	34
②	ア	9	11	20
	イ	11	9	20
③	ア	7	8	15
	イ	8	3	11
	ウ	1	1	2
	エ	2	2	4
	オ	1	1	2
	カ	1	2	3
	キ	1	2	3
	ク	0	2	2
④	ア	2	5	7
	イ	18	15	33
⑥	1	4	0	4
	2	1	0	1
	3	0	0	0
	4	2	0	2
	5	1	3	4
	6	2	2	4
	7	5	7	12
	8	1	1	2
	9	4	5	9
	10	0	1	1
	11~16	0	0	0

〔資料-10〕 「男女の交際」(2)

- ⑥ 中学生の男女交際についてどこまで認めますか：それはなぜですか？
- ・映画、喫茶店まで：それ以上までいくと相手のことをイヤになるし、自分があさましく感じると思うから（男子）
 - ・軽いAまで：このあとまだいい人が現われることもあるかもしれないから、あまり進みすぎない方がいいと思った（男子）
 - ・ほほや髪にふれる：中学生はまだ子供だと思う。男女交際といっても友だちにすぎない。考え方がかわることも多いと思うから（女子）
 - ・強いAまで：それ以上いくと男の子はいいかもしれないけど、女の子はボロボロになっちゃうというか……（女子）
- ⑦ Y子さんのことをどう思いますか？
- ・ただの気まぐれや気ばらしにやる程度のものならふざけてる（男子）
 - ・本当に愛していて責任がもてる人なら別にいいけども、そのあと別れたということは相手の人もいいかげんな気がする（男子）
 - ・Y子さん自身も成り行きしだいという感情があったんじゃないかな。ばかだなーと思った（女子）
 - ・やっぱり愛している人でも結婚するわけじゃないから、そんなことをしたら自分が傷つくだけなんだとどうしてわからなかったか（女子）
- ⑧ T君のことをどう思いますか？
- ・自分で自立できるようになるか、それと同じだけの責任がない時にそういうことはしないほうがいいと思った（男子）
 - ・だれだって好奇心でCまでいきたいと思うかもしれないけれど、それを自分でおさえなければいけないと思う（女子）
 - ・女の子にしてみればSEXは生命にかかわる問題ということをもっと考えてほしい（女子）
- ⑨ 感じたこと、考えたことを書いてください。
- ・男の出方しだいで女は傷ついてしまうんだなー。好奇心はできるかぎり押えよう。そうしないと暗いものになりそう（男子）
 - ・あげたら結婚できないという考えはもう古いかもしれないな（女子）
 - ・自分自身好意をもっている異性はあるし、つきあいを頼まれたこともあるけど、もっと2人のことを考えてきつとCを許すことはないと思う（女子）

の指導に任せておいたということもある。

今回、ビデオ番組という視聴覚教材の手を借りて授業を行ってみて、「意外と充実した授業ができた」という感想を持っている。自分で思っていたよりも落ち着いた態度で微妙なところの話もできたし、この種の問題に敏感な生徒たちも真剣に話を聞き、ビデオを見、考えをまとめようとしていた。

この授業を行ったことの影響が筆者の思わぬところへも現われていたことが、後になってわかった。それは、10月下旬の保護者会の折に出た、ある男子生徒の母親からの発言であった。〔資料-8〕のプリントの一部（項目1~6）と〔資料-9〕の生徒の回答結果を一枚のプリントにした保護者会用の資料を配布して、「男女の交際」の授業を紹介しながら、クラスの生徒たちの反応、下着の盗難の件など、性に関する関心・問題を話し合っていた。すると、「実は……」という

ことで話が始まった。母親によると、この授業のあった日、その男子生徒は家に帰るなり、「お母さんはウソをついていた！」と言って怒り出した、というのである。つまり、この母親は、息子の性教育に際して、「コウノトリ」式の話聞かせて、男女の性行為についてはまったくふれずにすませた。この位の年頃になってくると、友だちなどから性についての知識を得ることが多いのだが、たまたま、この生徒は母親の話信じきっていて、そうした情報も得ないままであらう。ところが、道徳の授業で、A・B・Cの話、中絶の話などが出、「ウソ」がわかったのである。筆者も、生徒たちの授業中の反応を見たり、さらに回答を集計してゆく中で、意外なほどの幼さが男子生徒の一部にみられるのに気づいていたが、この話を聞いて、なるほどと思ったのである。「その生徒にとってはまづかったか」という筆者の心配に、母親は、きっぱり

〔資料-11〕 「親に言いたいこと」より

1) 自分の思い通りにさせてほしい;もう少し自由にさせてほしい(服装,外出,友だち,おこずかいの使い方)	9人
2) 自己中心に考えたり言ったりしないで;言うことに首尾一貫性を;「それは理屈だ」と子どもの意見をかたづけしないで;親の意見を押しつけないでほしい;人に注意することを自分でも注意してほしい	9
3) 「勉強しろ」と言わないで;勉強しようと思っている時に「勉強しろ」と言わないで	6
4) おこずかいをまとめてもらいたい;きちんとほしい;上げてほしい	5
5) くどくど言わないで;細かいことは言わないで;どならないでほしい	5
6) 趣味にもっと理解を示してほしい	4
7) 兄弟(姉妹)に対して公平にしてほしい	3
8) たばこ・酒をやめてほしい;トイレでのたばこはやめてほしい	3
9) 兄弟の話・けんかに口出ししないでほしい	2
10) 子ども扱いされたくない	2

ア. 親子関係がとてもうまくいっている	2人
イ. 親子関係がうまく行っているほう	12
ウ. 普通の親子関係	26
エ. 親子関係がよくないほう	1
オ. まるで親子関係がうまく行っていない	0

という結果であった。筆者の担任クラスに限っては、それほど親子関係が問題になっていないことがわかったわけだが、予定通り、日頃の親子の関係で、「このことだけはどうしてもわかってもらいたい」、「こうしてもらいたい」と思っていることを書くようにと指示をした。生徒たちは、名前を書くこと、あとで担任が読むこと、保護者会で直接自分の親が読むことなどによりかなり抵抗を示したが、とにかくこの機会に日頃言えないでいること、言っているがなかなかわかってもらえないことを中心に書くようにとだだめて、ようやく書かせることができた。この作文の中から、「親に言いたいこと」をまとめてみると〔資料-11〕のようになった。

6 ビデオによる授業「万引」より

最近、少年非行の低年齢化が問題にされるが、その非行の中で高い割合を占めるものに「万引」がある。多くの学校でグループ万引と言えるような非行が報告されているが、本校も例外ではなく、残念ながら、担任の生徒の中にもグループでこの罪を犯したものがでてしまった。スーパーや24時間ショップなど「万引」しやすい環境が増えたことや、物をたいせつにしない大量消費の意識などが原因であろうが、この問題について生徒たちに考えさせたいと思い、万引事件発覚後1カ月ほど経過した時に、授業で取り上げることにした。

たまたま、NHK総合テレビの『中学生日記』で「万引」についての番組が放送されたので、これをビデオに収録して、授業に用いる計画に移った。この番組に登場する教師たちが、生徒の万引が発覚したあと、アンケートをとることによって生徒の自覚をうながすことを決め、そのアンケート結果を授業で紹介しながら担任教師が話をするという場面があった。そこで、このアンケート項目と同じものをプリントにするとともに、「なぜ万引するのか」について自分の意見を書かせるようにしたのである。授業の手順は省略するが、ビデオを見た後で、次のような指示に従って生徒たちが書いたものの中からいくつか選んで〔資料-12〕に示しておく。

「最近、小・中学生や高校生の中で万引が増加していると言われています。なぜ万引すると考えますか、自分の意見を下に書いてください」

と、「よかった」と答えてくれ、筆者も安心した。いつかは本当のことがわかるのだろうが、それを話すきっかけがない。きっかけになりそうなことがあっても、つい言えなくなってしまって、ずっと機会を逃していた。そこで、授業でしっかりと、包み隠さずに話を聞くことになり、これをきっかけにして、言わなくてはならないと思っていたことを、じっくり息子と話すことができた、と言うのである。

この母親の話をきっかけにして、性教育はだれがどのように行ったらよいかという活発な話し合いが始まり、多くの母親から、筆者の知らなかった生徒の一面を教えてもらうとともに、「男女の交際」の授業の反響を伝え聞くことにもなったのである。授業は、ほぼよい成果を得たように感じた。

5 作文「親に言いたいこと」より

上記の保護者会に向けてのPTA学級委員会の席で、ある母親から、「子どもたちが親のことをどう思っているのかを何らかの形で知りたい」という発言があった。これをヒントに、保護者会の開かれる2週間ほど前に、「男女の交際」の次の授業として「親子関係」をテーマに選び、生徒たちに「親に言いたいこと」という作文を書かせることにした。書かせる前に、生徒たちの家庭における親子関係をたずねたところ、

〔資料-12〕 「なぜ万引すると思うか？」より

- ぼくもやったことがあるのでわかるけど、別にお金がなくそんなほしいわけじゃない。だけど、スリルがあって、家に帰れば勉強ばかりで、そのスリルで体にたまったものを発散させることができるのだと思います (男子)
- お金が足りない、というような理由で万引する人がいるが、お金を持っていてもスリルを味わうために万引する人もいる。他には、友だちが遊び相手になってくれずに、何々を万引してきたら仲間に入れてやるとか、そういうこともあるかもしれない。そんな人たちを友だちにしないで、もっともっといい人もいっぱいいるはずなんだから、いい人と友だちになればいいと思う (男子)
- 一度やってみようとして、やってみても見つからなかったら、これはいい、もう一度やってみようという気になると思う。それが続くと、やっても悪いことだと思わなくなると思う。そうなると思わなかった (男子)
- 恵まれた環境の中で生活しているからこそ、万引は起こるのではないかと思う。ちょっとしたいたずら心がうずまいて、「えい、やっちゃえ」となるので

はないか。幼い頃に「がまん」だとかいう人間にとって一番大切なものをしっかり教えてもらわないと、悪いとわかっていても、意志の弱さで罪を犯すのではないだろうか (女子)

- どうしても、友だちは自分の持っていないものを持っているという劣等感があると思う。それでついやってしまうこともあると思うけれども、もっと大きいと思うのは、友だちと一緒にいると、どちらも「自分は大きな事をやる。少々のきまりなんかやぶれる人間だ」と示したくなると思います。だから、万引という行動になって、他の友だちも、「やってはいけない」と言うと、すぐに「まじめだ」と言われるのがいやで、自分がやらなくてもついていってしまうと思います。勉強勉強とおしつぶされるような感じの反動だと思います (女子)
- 私は小1の時万引をした事があります。でも、それは店の人にも両親にも見つからず万引して、やっばりいやだということで、次の日そっと返しました。それは、親に言っても (買ってもらうことが) だめなことくらい小1でもわかるので、やってしまったのだと思います (女子)

〔資料-13〕 「いじめっ子・いじめられっ子」の経験

- ① あなたは、小学校・中学校を通じて「いじめられっ子」だった経験がありますか？
- | | |
|---------------|----|
| ア) ある | 2人 |
| イ) それに似た経験がある | 15 |
| ウ) ない | 24 |
- ② あなたは、小学校・中学校を通じて、特定の子をいじめる「いじめっ子」グループに入っていたことがありますか？
- | | |
|--------------------|----|
| ア) ある | 3人 |
| イ) それに近いことをしたことがある | 11 |
| ウ) ない | 27 |
- ③ あなたがこれまで見た(加わった)「いじめ方」は、どんなふうでしたか？
- | | |
|------------------------|-----|
| • 口でへんなことを言う・悪口を言う | 10人 |
| • 軽くつねったり、なぐったり、けったりする | 9 |
| • 無視する・仲間はずれにする | 7 |
| • 物をとる・かくす・こわす・よごす | 6 |
| • いやがることをする・チョークを目に入れる | 4 |
| 服を脱がす・いやなことをやらせる | 4 |
| • プロレス・ボクシングのやられる方にする | 2 |
| • 変な目で見る・にらむ | 2 |

7 ビデオによる授業「いじめっ子、いじめられっ子」より

ここ1年位の間に、教育問題の特集する番組が相ついで。その中で、東京テレビ系で「教育特集：こどもたちはいま」という番組が放送され、その第3回(昭和58年12月14日分)で「いじめはなぜ流行する?」というタイトルで「いじめ」を特集した。これをビデオで録画し、授業向けに18分ほどのものに編集して授業で活用する計画をたてた。

幸いにして、本校では、ひどい「いじめ」は存在していない(と教師には思われている)が、ささいなトラブルや特定の子へのいやがらせなどを時々見聞きするし、小学校時代のことも含めて、集団で1人の子をいじめたようなことがなかったか、あったとしたらどんなことかを思い出させ、他人に対する思いやり、弱者の立場にたった行動のあり方など、あるべき方向へ生徒たちを導いてやりたいと考えた。上述のテレビ番組は、いじめられている小・中学生の生の声を素材にしている部分が多くあったので、情動的に訴えるためのかっこうの教材となった。

授業の具体的な展開については省略するが、この授業でも、ビデオと関連したプリントを作った。ビデオ

〔資料-14〕 「いじめっ子・いじめられっ子」の原因、解決策

① なぜ「いじめっ子・いじめられっ子」がいると思いますか？

- 同学年での力の差や、明るい・暗いで決まる (男子)
- 人間にはやはりだれにでも悪が心の中にいすわっているし、その悪がはつきり出てしまう人や、心の中でこっそり思っている人などさまざまだから (男子)
- いじめる側は、まわりの強い子が味方してくれると思って弱い子をいじめると思う。弱い子に味方すると自分もいじめられるから、みんなも弱い子には味方しない。だから弱い子は暗い性格になり、やがて「いじめられっ子」になると思う (男子)
- ビデオでもいっていたように、ストレスがたまるからとか、やっていると気分がいいからだと思いますが、私は、クラスで一番強くなりたいたか、みんなから「あの子は強い」と思われたいから一人の子を集中していじめるのだと思います (女子)
- 性格の弱い子と強い子に分かれていて、強い子は気分晴らしに何でもないように思いながらやるけど、やられる方はズーンとくるほどそのことを考えている。性格の点でやはり出てくるのでは？ (女子)
- いじめっ子はやってて楽しいって思い、いじめられっ子の気持などはあんまり考えないので、平気でできると思う。中学生の場合だと、上級生に自分がいじめられた時、下級生にあたりちらしたくなるんじゃないかと思う。いじめられっ子は、動作のにぶい子やおとなしい子など、あまり言い返せないような子が多いと思う (女子)

② 「いじめられっ子」がいじめられている場面にあわせたとしたら、あなたはどうしますか？

- 昔 (小学生時) はだまっていたが、今なら口をはさむ程度。ぼくも相手によっては助けるかもしれん。ぼくもひきょうな男です (男子)
- もしいじているヤツが自分と同じくらいの力か、それ以下なら止めるかもしれない。やっぱり自分もいじめられるのはいやだから、だまって見ているかも知れない (男子)
- 自分もその子がにくたらしかったら、いっしょにいじめると思います。でも、そうでない時は、見て見ぬふりをすると思います (男子)
- 先生に言いに行く。自分だけではそれくらいしかできないと思う (女子)

• 友だちと「かわいそう」と言いあう。数人ならば、「やめなさい」と言えると思う (女子)

• いじめられっ子の態度やその理由による。「なぜそんなことでいじめるのだろう」と思うことなら、止めに入ると思いますが。でも、止めに入るとかならず「あの子はいい子ぶってる」と言われるので、少しいやな気もします (女子)

③ どうしたら「いじめ」がなくなると思いますか？

- 学校をなくせばいいと思う。そうすれば、頭がいいとか悪いとかわからないからいじめないと思う (男子)
- 学校が共同生活の場である以上、いじめがおこるのは仕方のないことではないかと思う。しかし、いじめる方もいじめられる方の気持を考えれば、きっとそんなことはできないと思う。最近では、自分のことだけしか考えないような人がふえてきたと思う (男子)
- 性格の暗い子というのは、だいたい1人で行動しているから、それなりの集団を作ればいいと思う。もう1つは、性格の暗い子がそれなりの努力をして、明るくなればいいと思う。でも、それにはまわりの人の力がたくさん必要になるから、みんなが協力して暗い子を明るい子にしてあげなければならない (男子)
- いじめっ子なんていうのは心の底からくさっているから、なくすためには、親がそのように小さい時から心の教育をしなければいけないと思う (女子)
- 今の日本の状況では無理だと思う。子どもは親の言うことさえもきかないんだから (女子)
- いじめられる方も「性格だからしょうがない」というようなことを言ってるんじゃないで、いやならいやとはっきり言えばいい。言ってもだめな時には、中に入ってくれる人が現われるまでがんばる。いじめられる子たちで仲よくなれば、仲間もいるし、どんどん他のグループに入っていったり、話しかけたりすればいいと思う (女子)
- どうしようもないと思う。「いじめ」がなくなったとしたら、私たちは個性のない、うすっぺらな人間になった時だと思う。「いじめ」はエスカレートすることはあっても、なくなりはないと思う。金第一主義、勉強第一、進学第一の時代が終われば、望みがあると思う (女子)

を見る前には、「いじめっ子」、「いじめられっ子」の経験の有無やその実態を答えさせた。その結果をまとめたのが〔資料-13〕である。回答した生徒の41%が「いじめられっ子」あるいはそれに近い経験があり、34%が「いじめっ子」あるいはそれに近い経験があったことがわかる。ビデオを見た後では、「いじめ」の原因や解決策について書かせた。その中からいくつかの意見を紹介しておこう〔資料-14〕。

8 作文「私の教育改革」より

中曽根首相は、昭和58年12月の総選挙以来、教育改革を行政改革に次ぐ政治的課題として取り上げてきている。59年度予算を審議する国会において、首相は教育改革に関する演説を行った。そうした社会的状況の中で、生徒たちは中学二年を終えようとしている。4月からは三年生となり、進路選択を迫られる。教育問題の核心とも言える「高校入試」をほとんどの生徒が経験することになる。こうした時期に、生徒たちに、自分なりに「教育」を考えるきっかけを与えてやろうと思い、中曽根首相の国会演説より、教育改革に関する部分を資料としてプリントにし、クラスで討論したあとで、作文を書かせたのである。題して、「私の教育改革」。必ず、「拝啓、中曽根康弘様」の書き出しで、自分の意見をまとめさせた。

生徒たちの意見の中には、なかなか面白いものもあるが、大部分は、高校入試をなくすこと、中・高の一貫教育にして欲しいこと、さらには、大学へ簡単に入れるが出るのをむずかしくすること、選択度を増したカリキュラムにすることなどに集中していた。それ以外の意見・提案を整理して〔資料-15〕に示しておくことにする。

9 あとがき

当初の計画では、筆者の担任した中学二年生を取り巻く様々な環境から始め、中学校生活における道徳・

〔資料-15〕 「私の教育改革」より

- 勉強第一、勉強する場所っていうんじゃないくて、個性を出せる、伸ばせる、発揮できる場所にしてほしい。
- 落ちこぼれる人の出ないようにしてほしい。そのためには、義務教育でなく、学校へ行きたい人だけいけばよいと思う。また、クラスの人数を減らしたりすれば1人1人によく教えられるようになる。
- 基準に達すれば進級し、能力があればどんどん上げるといふ制度にしてほしい。
- 男子なら大工仕事、畑作・稲作、座ぜんなど、女子は裁縫、つけものつけ方・作り方、台所仕事など学校の時間をけずって家庭内教育とする。
- 12年制にし、8年間を義務教育とし、あとの4年間は自由とし、学校の中に専門学校も置いて総合的な学校を作る。1つの学校の規模を小さくしてほしい。
- 3~6才は幼稚園へ行き、6~10才の4年学校とする。その後は、15才位まで、料理・医学・教育・芸術・外国語などの完全な専門学校にして免許を取らせる。専門学校は全寮制として完全に親から離れる。
- 短期大学というのがあるのだから、短期小学校、短期中学校、短期高等学校というのを作ればよい。

学級会活動・ゆりの時間などの位置と相互の関連、「道徳」の授業で行った実践報告、そして、その過程で出てきた生徒たちの傾向、生の声を順に描いてみようと考えていたが、資料も多く、かなりの量になってしまいそうに思われたので、思い切って、「道徳」の授業のあらままと、その過程で生徒が示した反応の数量的な整理、そして、興味をひくと思われた項目についての生徒の考えを少し紹介して、この報告を終えることに変更した。従って、「中学生像」は断片的なものにならざるを得なかったため、改めて全容を紹介できるような機会を持ちたいと考えている。